

授 業 科 目 の 概 要

共通科目

授業コード	授 業 科 目	担 当 教 員	授 業 科 目 の 概 要
255001	生命倫理・医療文化論	蔭山准教授 加藤教授 堀江教授 白石准教授	医療専門職者が熟知すべき生命倫理問題と個人の尊厳について理解を深めるとともに、医療全体を広く医療人類学的・社会的に論議し、医療の原点を探求する。
255002	生涯保健学	酒井教授 神出教授 小西教授 遠藤淑美教授	人間は一生の様々な段階において、環境に影響され、かつ影響を及ぼしつつ発達を遂げていく。小児・成人・老年、および母性、精神の各領域ではそれぞれの特有の課題がある。生涯保健学の目的は、このような人間の発達に関連した様々な領域での課題に関して身体・精神両面から検討することにより、生涯にわたる健康の保持への援助を考えることにある。
255003	環境保健学	本行教授	環境は、健康あるいは病気と直接的にも間接的にも大きな係わりをもつ微生物、化学物質、放射線、アレルゲンなどについて個体、組織、細胞、遺伝子などに影響を及ぼす科学的根拠を示すとともに、生体の反応について概説し、それに対処する予防保健の面についても指導する。 受講要件：なし 成績評価：出席点とレポート
255005	保健情報論	大野教授 沼崎講師 木戸助教	(1)がん臨牀にて発生する情報マネジメント、統計解析の概要を講演し、医工連携の典型例である放射線腫瘍学分野での臨牀 dummy 症例を用いて情報分析の重要性を理解させる。 (2)保健医療情報収集について体験的に理解させる。特にタイムスタディに基づく情報収集、解析に焦点をあてる。 受講要件：なし 成績評価：出席、レポート、受講中の理解度で評価
255007	臨床病態解析学特論	三善教授	臨床的な種々の病態に対し、理論的かつ効率的な臨床検査法の適用、成績処理、解析法、複数の臨床検査成績からの病態診断法を論じ、これに続く研究計画の立案化などを講じる。特に、博士前

			期課程においては、こうした研究計画の英語による立案化の重要性を示す。 成績評価：レポート
255008	生命情報学特論	㊥木原教授 辻川教授 梅下教授 神出教授 保仙 寄附講座准教授 渡邊教授	生体内で起こっている生命現象の中から、生体情報として体外へ取り出したり、体外から認識しうるものについて解説する。内分泌系、代謝系、神経系、免疫系、血流動態系などの縦断的機能制御機構を、細胞外液成分、細胞膜成分、細胞質成分、細胞核成分などの横断的分析によって評価する方法論が軸となる。生体情報分析の科学技術の現状と限界、展望についても講述する。 受講要件：なし 成績評価：出席、レポート
255110	感染制御学特論	戸邊教授	感染症の克服には適切な対応のための正確な知識が必要である。特に医療機関などにおける院内感染対策は重要な課題である。多剤耐性菌の出現や易感染者による日和見感染症の増加が感染症克服と治療を困難にする要因となっている。一方、市中感染症としては新興感染症や再興感染症に対する対策が必要である。この様な現代社会における状況のなかで感染症の制圧に向けた方法論について解説する。 成績評価：レポート
255010	国際疾病疫学	戸邊教授	現代の感染症は、ヒトや物資の地球規模の流通や気候の変化により以前のものとは大きく様変わりしている。流行は地域に限定されたものから、より広い地域へと広がりを見せるものが多くなっている。感染症の種類やその感染拡大の傾向と WHO による対策について概説する。 成績評価：レポート
255126	がん登録とがん予防	大野教授 神出教授	がん予防のための保健活動について講義を行うとともに、がん罹患動態の把握の基盤として実施されている院内および地域がん登録の重要性と活用方法についてがん病理学の知識とともに教授する。一部演習・見学を集中講義形式で予定。
255011	保健学ゼミナール	中谷教授 三善教授	本ゼミナールにおいては、保健学領域における最新の研究成果に触れ、研究の動向を理解し、自

		梅下教授	らの研究の方向性の決定に資する機会をもつため、下記要件を満たすセミナーなどを 10 回以上受講し、その中のいくつかのセミナーに関して報告書を提出する。一部に e-ラーニングを取り入れても差し支えない。 単位取得の要件と認めるセミナーは 大阪大学医学系研究科の教員が企画、運営するセミナー、研究会、シンポジウムなどであり、吹田または豊中キャンパス内で開催され、無料で学内に公開されているもの。 なお、所属する講座や研究室内での抄読会、セミナーなどはそれぞれの指導教員の「特講」「特講演習」において単位認定される性格のものであり、「保健学ゼミナール」としては認めない。 指導教員の承認を得て参加した学外開催の学会、研究会、シンポジウムなど。 受講要件：なし 成績評価：レポート
255128	医療知財学総論	不開講	医療分野における知財に関する法律全般の講義のみでなく、特許戦略・知的財産戦略の概要にも言及する。具体的には、特許、研究開発と知財、医療機器開発の実際と問題、医薬品審査、医療分野における行政と知財等について各界の専門家を招いて講義する。 受講要件：なし 成績評価：出席、レポート
255129	医療経営学総論	河越特任教授	医療施設における経営管理に関する理論的背景を学ぶ。具体的には、医療経営、医療経済、医療制度、医療と行政、医療経営に関わる法的問題、医療機関における I T 戦略について各界の専門家を招いて講義する。 受講要件：なし 成績評価：出席、レポート

255218	医療経済学総論	河越特任教授	医療制度に関する経済学の理論的背景を学ぶ。具体的には、市場と国家と家族の関係や、財政と医療の関係、経済成長と医療の関係など様々な医療経済にかかわる問題を講義する。 受講要件：なし 成績評価：出席、レポート
255181	中医看護学	大野教授 王 招へい教授	中医学は、鍼灸、推掌（マッサージ）、薬膳、運動（太極拳）など多岐に亘る体系的な医学であり、非侵襲的に自己の健康状態をモニタリングし未病先防（診断のつく前に体調を整える）が可能である。2時間連続で講義と実習を連続して行う。 受講要件：特になし。ただし、実習の都合上、受講者数が多い場合は人数制限を行う場合がある。 初回、必ず出席すること。 成績評価：出席と課題提出状況により評価する
255209	中医学概論	大野教授 王 招へい教授	中医学の基礎及び関連領域について集中的に講義する。漢方、鍼灸、推拿、薬膳等も含む。 受講要件：特になし。ただし、講義構成上、受講者数が多い場合は人数制限を行う場合がある。初回、必ず出席すること。 成績評価：出席と課題提出状況により評価する
255182	先進医療・臨床試験科学特論	大野教授 濱崎招へい教授	先進医療・臨床試験において不可欠な試験デザインおよび統計的な知識について講義する。一部演習も併用し実践的な知識獲得も目指す。 受講要件：数量的分析に興味があること 成績評価：出席と課題提出状況により評価する
255177	看護工学 I	大野教授 Jeong 特任准教授	看護において工学的知識が必須となっている。本講義では工学の基礎と看護の工学的視点からの検討方法について基礎から教授する。一部演習・見学を集中講義形式で予定
255195	再生医療特論	三善教授 澤教授 西田教授 江副講師 辻川教授 山本浩文教授	21 世紀にはいり再生医療は急速に発展し、すでに実施医療の場で臨床応用されている。当初は発生学との融合で脚光を浴び始めた再生医療だが、iPS 細胞の発見で革新的な学問へと進化した。また実地臨床の場に再生医療を応用することで、これまで治療法がなかった難病に対しても新たな光が見えたと言える。再生医療をより広く臨床の場に

			届けるためには、医師だけではなく、彼らと協働できる人材と社会の仕組み（法律を含む）のサポートが必要になる。最近、再生医療に関する法律が改正され、より安全に再生医療を臨床の場に提供できる環境が整いつつある。本講義では、さまざまな再生医療に関する現状を大学院生の皆様に提供し、この分野における知識を深めるとともに、最先端の研究・臨床の素晴らしさを実感していただきたい。 受講要件：なし 成績評価：レポート
255208	知的財産入門	大野教授 申特任助教 北村特任教授	知的財産の創造、保護及び活用が国家戦略の一つとして位置づけられ、その保護及び活用が大学においても益々重要となっている中、学生や研究者においても研究活動で生み出される知的財産の重要性を認識し、研究成果を保護あるいは活用するための知識を身に付けることが必要といえる。 この講義は、研究開発に携わる学生や研究者が、知的財産法についての基本的な知識を修得し、研究成果として生み出された知的財産がどのように保護され活用されているのかを学習することにより、知的財産に対する理解の一步となることを目的とする。 特許に関する基本的な知識に加え、関連する知的財産法として意匠法、商標法、著作権について学習すると共にインターネットを用いた知的財産情報の調査（検索）を経験する。 受講要件：特になし 成績評価：平常点（出席、受講カードの記載による）＋ 試験
255119	保健学研究・教育 実践	指導教員	指導教員の指導のもと、当該専門分野の学外の実践現場において、第一線研究者、実践者から集中的に直接指導をうけ、先端レベルの技術・知識に触れ、技能の習熟を図る。ここで学外の実践現場とは国内外の医療機関、研究所、大学などを意味する。

255253	国際保健医療 サイエンス特論	三善教授 松崎教授 沼崎講師	大学院の博士前期課程においては、自分での研究テーマを深く掘り下げるために、関連する論文をたくさん読まなければならない。自分が知らないことを教科書や日本語の総説で勉強することは基本的な姿勢と言えるが、たくさんの英語原著論文を読むことは非常に重要である。優れた科学論文を熟読することで、自分の研究の道が開けるような実感を体験してほしい。国際保健医療サイエンス特論では、個々の学生の研究に最適な英語論文を数多く読ませ、その内容をまとめてもらう。 また、保健医療者として国際保健活動の実際について触れることも可能である。英会話の勉強や外国文化に触れたい学生には本特論は適さない。 成績評価： レポート
--------	-------------------	----------------------	---